

ヨハネの福音書 第6章 63節

「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」

主イエスはいのちと肉を取り上げ、御霊の働きと肉の効用を語る。どちらも主イエスにより与えられている。それにもかかわらず、肉については強い否定的な響きで扱っている。肉を駄目だと言っているのではない。ただ、いのちと対比するならば、何の益ももたらさないことを伝えている。被造物（肉と言いだえられるのでは）は命を享受するが、いのちを与えることは出来ない。被造物は命を支えるが、いのちを生み出すことは出来ない。

いのちの祖になれないものに向かい、主イエスが語る。いのちを与えるのは御霊、わたしが話したことばが、霊で、いのちであると。何の益ももたらすことがない肉に、いのちを求めている者に、求められるいのちがある。いのちを求めるところがあると語る。「わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」

主イエスが直に語っておられる、霊で、いのちである、ことばを信じ受けるようにあなたがたに語っている。ここにいのちあり、ここでしかいのちに与ることが出来ない。みことばを信じる者は、御霊が与えるいのちを体験する。